

# 第 28 回 北九州市環境審議会 会議要旨

1. 日 時 平成 23 年 7 月 20 日 (木) 15 : 00 ~ 17 : 00

2. 会 場 ホテルクラウンパレス小倉 2 階 香梅

## 3. 出席者(敬称略)

会 長 浅野直人

会長代理 三宅まゆみ

委 員 泉優佳理、小野勇一、後藤雅秀、自見榮祐、末広勝嘉、土井智子、西道弘、  
花崎正子、番野宅二、樋口壯太郎、本田忠弘、諸藤見代子、八記博春、吉崎邦  
子、吉塚和治 (50 音順)

## 4. 議 題

### (1) 会長代理の選出

### (2) 審議事項

北九州市の環境基本計画策定について

### (3) 報告事項

北九州市循環社会形成推進計画について

環境モデル都市の進捗状況について

北九州スマートコミュニティ創造事業について

北九州環境みらい学習システムについて

環境マスコットキャラクター「ていたん」の制作について

## 5. 議事要旨

### (1) 会長代理の選任

市議会選出の委員変更に伴い、第 9 期委員の紹介が行われた後、会長代理が選出され、三宅委員が選出された。

### (2) 審議事項

環境審議会に対し、今永環境局長より「北九州市環境基本計画の策定について」の諮問が行われ、その後、事務局から同計画の進捗状況、計画策定にあたっての基本的な考え方、策定スケジュール等の説明があったのち、審議が行われた。

### (3) 報告事項

北九州市循環社会形成推進基本計画について、環境モデル都市の進捗状況について、北九州スマートコミュニティ創造事業について、北九州環境みらい学習システムについて、環境マスコットキャラクター「ていたん」の制作について、事務局より報告があったのち質疑応答が行われた。

## 6. 議事録(要約)

### (1) 会長代理就任挨拶

#### 【三宅会長代理】

環境審議会の会長代理に指名いただいた市議会議員の三宅まゆみです。

昨日まで台湾の高雄のエコタウンとそれに伴う企業の視察をして、今や、世界が環境をキーワードに動いていると実感した。本日も北九州の環境基本計画に関して諮問があり、これを審議する。この基本計画は本市の環境分野における最上位の計画であり、持続可能な社会の実現に向け、

今後の環境行政を推進する上で根幹となるものだ。

この審議会は2回目、大変重い役目を肝に銘じ、会長を補佐し、しっかりと取組み、北九州がある意味で世界の環境首都となれるよう、議論を皆さんと共に努めていきたい。皆さんの協力をよろしく願いたい。

【浅野会長】

今から、議事に入りたい。審議事項は、北九州市環境基本計画策定について。これまでの経過、あるいは今回の新しい計画策定のスケジュール等について事務局からの説明を伺う。それに続き、報告事項として5点報告をうける。

それでは、『北九州市環境基本計画の策定について』について事務局から、考え方やスケジュールについての説明を頂く。

北九州市環境基本計画の策定について、佐藤総務課長より説明

【浅野会長】

現在、国の環境基本計画が今年度で終了するため、次年度へ向けて検討を行っている。普通の自治体だと、国の計画ができて、その計画を参考に次の計画を作るが、北九州市は国と同じような計画ではないので、国の計画の構成が変わっても、あえてそれに合わせる必要はない。参考資料2として配られている資料は、6月に国の中央環境審議会で配られたものだが、その後の検討によってかなり変わっていることをおとりわりしておくが、新しい国へ基本計画はこのような考え方でつくられる予定である。

北九州市は、しっかりした骨格をもった環境基本計画を作っているので今の方向でよいと思う。もう一度確認をしておきたいことは、他都市の環境基本計画と違って、北九州市にはみんなで一緒になって、つくった、『環境首都グランド・デザイン』がある。これは、どちらかという行政が何をやるのかではなく、事業者、市民が何をやるのかを、みんなで話し合いしたものだと思う。それを今度は行政が推し進めていく際に、行政としての取り組み方を行政計画として定めたものが決めるのがこの環境基本計画。環境基本計画はグランドデザイン行政施策として、これをどう展開するか考えましょう。

他都市で環境基本計画をつくと全く発想が違う。北九州市の環境首都の長期的なビジョンは、10年間はこれでやるというような内容を持っている。今回は全く白紙で新しい環境基本計画を作るのではなく、環境首都のビジョンをその後の状況も踏まえながら更に強力に進めていくためには、施策をどんな形で強化する必要があるだろうか、といった視点で計画を策定していくことになるというのが、先ほどの事務局の説明だと思う。

それに加えて、国の計画にどんな新しい視点が入ってくるかどうか見ていかなければいけないが、多分一番大きな点は、環境というところからものを考えなければいけないということ、もっとはっきり出していかなければいけない。つまり、どこまで書けるかわからないが、経済的発展をまず真っ先に考えるのではなく、環境づくりをしっかりと考えると、それが自然に経済的発展にも繋がるのだという事をよく分かってもらう必要があるということが、今、国の新計画づくりでの議論の中心である。これは北九州では先刻よく分かっていることである。環境を考えることが、北九州では一番経済的発展につながる。これがよく分かっているので、そんなに大きく方向を、北九州市が変えなければならないということはない。こちらはもう既に国の新しい計画の考え方を先取りしているのだというつもりでやればよいと思う。これまでやってきたことで、どこが足りない、どこをもっと強化したらいいか、ここはもっと新しいアイデアがあるか、みんなで意見を出しあって、環境計画の次のバージョンをつくることになるだろうと考えている。

それでは、只今ご説明を頂いたこと、私が今補足で申し上げたことと併せて、これまでの計画の点検についても説明があったこれらについて自由にご意見を頂きたいと思う。

【八記委員】

私は『二酸化炭素の削減量』を環境基本計画の中心に加えて頂きたい。資料を読んだが、抽象

的な文言が多く、具体的な取組みが見当たらない。既に北九州市は『2030年までに、二酸化炭素30%削減する』と目標を掲げているが、これがあいまいだと審議や計画は安定しないと思う。

また、先ほど局長の挨拶の中で、『低炭素についてモデル化を進め、実用的な方向に向かいつつある。』という話もあったが、2030年まであと19年しかない。ここで10年間の計画をつくり失敗すれば、残り10年しかない。是非、二酸化炭素の削減目標をこの基本計画の中心に据えて頂きたい。2007年のデータしかないが、基準年の1990年に比べ、ずいぶん増えている。ですから、30%削減どころか、今換算すると36%。2007年の36%削減しないと目標を達成しない。そういった深刻な事態にあるということ認識して、是非お願いしたい。

二つめは、環境を守るという点で、今の原発の問題も出たが、廃掃法などが整備される前、様々な環境問題があったと思う。それを現時点で、しっかりと見直して、とらえて改善をしていくということが大切ではないか。私が言いたいのは、企業の埋立地に、たくさんの有害物質が埋め立てられ、それは企業の責任になっている。そして、外に出さないために当時岸壁が作られたのが、今その岸壁はほとんど崩壊をしており、垂れ流しされている。今の法律では、遮断型にしなければならぬようなものがどんどん海に露出している。そういう問題についても、この基本計画の中で、きちんと位置づけて対応して頂きたいと思う。以上です。

#### 【西委員】

先ほど、基本計画の19年から21年まで。特に21年について、説明があったが、この評価の方法は、役所の中でどう評価されているか、追加説明をお願いしたい。

#### 【佐藤 環境総務課長】

私どもで行った評価が、役所の中でどう評価されるかということであるが、それぞれの担当局で評価を行っているが、同様に市役所全体の中で、この環境分野だけではなく、他の事業についても行政評価を行っている。原課にとってみれば、二つの評価をそれぞれ行政評価用と環境基本計画評価用にするのではなく、同じ評価にしている。だから、ある意味市全体で今取り組んでいる行政評価の中の評価にもつながっている。

行政評価は市役所全体の中では、次年度の予算要求に影響する。そのような点で市全体の事業を評価し、次の施策に展開させていくということに資するものになっていると思う。

#### 【樋口委員】

現行計画の平成19年度から23年度のPDCAサイクルに基づく評価を頂きたい。個別の評価については平均で85.6%という、非常に高い評価だったが、これらの評価を受け、10年計画の後期については、ほぼ同じ施策で行う方向性だと思う。85.4%というのは、これは大成功であったということで、この中で例えば、一部見直すべきものがあるとか、既に途中で事業を廃止したという報告もあったが、総合評価として数値だけを見ると、もう非常に良い結果と思うが、どのように考えるべきか。

#### 【浅野会長】

むしろ、審議会がそれを評価するという立場にある気もするので、施策一つ一つができたということは、事務局に答えてもらうというより、我々が考えなければいけない。結果、本当に市民の行動や意識が変わったのか。あるいは、ちゃんとアウトプットとしてのことだろうが、どうなったのか、という事を見ながら、施策が進展してきているという点や、CO<sub>2</sub>排出量が下がったか、ごみの排出量が減ったかなど、考えなければならない。ごみは確かに減っているが、CO<sub>2</sub>や温室効果ガスが全体としては推移してきているのか、事務局として現計画の総合評価という面から、いろんな指標にもとづいてのデータを用意して頂き、この次の回には現計画のどこが弱いのか分かる様に、して頂きたい。

#### 【花崎委員】

今の樋口委員と同じ考えだが、総合評価といった場合、この中でグランド・デザインの社会面というところで、やはり市民力の評価が重要だと思う。市民というのは、ひとりの人間であると

同時に自覚ある社会人でもあるから。ここで主に検討された内容は、人と物との関わりについてで、それについてはとてもきちんとしてられていると思う。

では、人と人がどのように関わって、それをどう評価するか。それは意識を含めて、自分たちが行ったもの、あるいは、他も行ったもの、それをどう評価するか。特に人との関わりの方の側に立った評価である。物との関わりは、良く評価できているが、人がそれをどう受け止めて、あるいはどう関わってどう受け止めたか。これは、環境面も経済面も言えることである。そこにやはり人が関わって、そういう面を改革していくことだから。さらにそれらについての人の意識がどうどう変わっていくのかも加えて、評価指標がいるのではないかと思う。以上です。

#### 【自見委員】

今回の大震災の話も出ましたが、東北や関東に限らずこれを契機に日本全体が基本的なレベルで物事を考え直すにはいい機会なのではないでしょうか。

コストと労力をかけていけば基本的には環境は綺麗になっていきます。住民の内外を徹底的に掃除するに始まり、経済的に余裕ができれば、綺麗にするために美術品を飾ってみようかというのと、いま一つは古いカーテンを取り替えたなら、綺麗になるだけではなく、断熱性や遮光性があるものなら、空調コストが下がるとか、工場の3S、5S運動なども、最初は凄いコストがかかりますが、最終的には工場全体の生産性がどんどん上がってくる、というように、かけたコストを上回るリターンを期待できる環境投資があると思います。先ほどの会長のお話のように、環境投資もプラスのリターンが期待できる投資でなければなりません、そのためには家庭であれ工場であれ、経済的に余力が生じたものを再投資することによって、更なる実質的なメリットを得たり、文化レベルの向上を図る、という好循環でないといけないと思います。行政が環境投資を行う場合は税金を使って行う訳ですが、この場合も税の収入、支出の全体バランスの中で、無理がなく、かつ的確なリターンが期待できる範囲で行う必要があるかと思えます。

それと最近、別に悪口という訳ではありませんが、市の環境局の組織全体を見ても随分と立派な体制になったと思います。極端に言えば、国も含めてこの時代は、「そのけそのけ環境様を通る」といった趣すら感じます。市民全体で決めたことだから、と言われても「こんないいことしますから」と言われたら、「それは結構なこと」という程度の反応であり、一人一人がコストパフォーマンスを考えながらの反応ではないと思います。このような風潮の中で、環境行政が独り歩きしてしまうことを、いささか危惧するところです。国の環境省の組織も含めて、役所同士の対応の中での自己満足的な施策が増えてきているのではないかと心配です。この部分がそうだ、とは申しませんが、そのようなことにならない配慮を是非お願いしたいと思います。

#### 【浅野会長】

少し厳しい意見であるようにも聞こえるが、北九州市が他都市と比べて突出して環境だけが頑張っており、元気がよくて、予算もうんと持っているとも思えない。北九州市で、どういうあり方でまちづくり、地域づくりと環境をつないでいくのか、という事を考えておかないといけないという事も言われる通りだと思う。さて、先程震災という事もご意見の中に出てきたが、このことからどういう経験を我々は得て、それを次の計画の中に、どう生かしていくのか。吉崎委員のお連れ合いが、東日本大震災の真ただ中で、東北で学長をしておられて、大変な思いをされたと伺っている、いろいろ感想などもお聞きになっていると思うので吉崎委員に何かあればご発言頂きたい。

#### 【吉崎委員】

夫は仙台の私学に勤めていて、3月末で任期が終わり北九州に戻るようになっていたが、あの3月11日の大震災で大学は大変だったようだ。人的被害だけでなく電気・水道・ガスなどのインフラ面でも、甚大な被害があったため、年度末の業務や卒業式など一切がストップした。夫は4月2日に北九州に戻ってきたが、日頃いろいろ話す夫がこの震災被害については口数が少なかった。1週間後ぐらいから学生や保護者が何人も亡くなったこと、たくさんの学生の家屋が流さ

れたこと、耐震構造の校舎だったが、備品類が大量に破損し、新学期の授業の見通しがついていないことなど話してくれた。

私は西方沖地震を経験して地震に対する恐怖感があり、備えはしているが、この東日本大地震は規模が違う。防災意識も大事だが、災害に強いまちづくりの視点が必要だと思う。それから6月11日に日本学術会議の研究者が中心になって大きなシンポジウムが開かれ、全国から300人が集まったが、自然災害とまちづくりを言うとき、ジェンダーの視点からのまちづくりも考えていかななくてはならないと思う。

#### 【浅野会長】

やはり環境計画は環境の世界だけで、きれいに絵を書いてしまうという事ではダメだという時代になっている。あまり環境のサイドで美しいことだけで言ってしまうだけではダメだという、指摘ではなかったのかと思う。環境首都を目指してとって作ったランド・デザインの中にも、人間の問題と言うこともとり入れてはいるが、いざという時の人間の弱さみたいなものを本当に取り入れきっているかと言えばその点は若干弱いので、その点は補強しなくてはいけないという気がする。

生物多様性については、名古屋でのCOP10以来また新しい動きがあるのか。どこを足せばいいのか。

#### 【小野委員】

生物多様性というのは、やっぱり安全でいうと、掛け声の部分がある。実際に現実をみると、お気付きかもしれませんが。町の中では、アマガエルがほとんどいなくなった。アマガエルの声というのはカミナリが鳴る前に高く鳴くが、その声は消えてしまった。というのは、氾濫期がなくなってきたのです。どこのまちに聞いても、全滅状態。多様性が、数年でどんどん低下している。その中で、北九州の部分によっては多様性が変わったところはいくつかあるので、それを上手に大事にしていかななくてはならない。

一方、生活の利便性というのが、どんどん高まってきているが、その辺のバランスをどこでとるのか、私も日夜考えているところである。

今回豊かな自然環境云々というところで、植林をする子ども達の活動は大変良いことだと思うが、一方で、これだけ沢山の都市公園をもっているところは少ない。新しい計画をやるならば、都市公園の見直しを行い、どれくらい公園としての機能を果たしているのか、これから必要なかと考えているところである。

#### 【浅野会長】

北九州は小野先生の提案で30世紀の森というものがつくられている。これをあちこちで宣伝すると、みんなビックリするのだけれども。やはりこの発想は、物凄いものがある。全然、時間軸の考え方が違う。最近大いにこの小野先生のお考えに啓発されて、国の環境計画でも指標を作る時に生物系については、ものさしの軸を10倍に伸ばせと指示している。この30世紀の森という事が、ちゃんと発想できるのが北九州だということも踏まえながら、計画を改定していきたいと思う。

それではスケジュールとしては、今後事務局がこの計画改定の素案をつくり、皆様方から順次ご意見を伺いすることになっている。次の審議会が10月という予定になっているが、それまでの間に個別に委員の方々にも、事務局がご意見を伺いに行くだらうと思うのでご協力を願いたい。

それでは、この諮問を受けて、計画の進め方、考え方について、今日説明を頂いたことを、了承した事にさせて頂く。

では次に、報告事項に移りたい。最初に、北九州市循環型社会形成推進基本計画策定について、事務局から報告願う。

北九州市循環型社会形成推進基本計画について、作花循環社会推進課長より説明

#### 【花崎委員】

水の処理というところで生活排水。その排水を浄化する適正な処理というのはよいが、それ以前に生活排水を、家庭から外に出す場合の我々の生活の仕方、廃棄の仕方、あるいは洗う時の洗い方辺りまで、市民が環境力を、エコマインドを持つ必要があるのではないかと思う。以上です。

#### 【浅野会長】

循環計画であるといえ、全体としての環境政策の中に位置づけられたとすれば、とにかく、下水道整備すればそれはそれでいい。あとは全部下水道にお任せ、というだけではダメだという事を明確に、この循環計画の中で打ち出せという御意見だと思う。確かにおっしゃる通りである。八記委員どうぞ。

#### 【八記委員】

産業廃棄物処分の削減としか書いてない。一般廃棄物については目標が設定されているが、数値目標を出して、追求をしていただきたい。

それから、市外からのごみについても、グラフを見せていただいて、市内発生 of 廃棄物の最終処分量に比べて、市外から来る産業廃棄物の量が非常に多いことに大変不安がある。今回の震災で、私も現地に行って非常に大変な状況を見てきたが、今、釜石市の瓦礫をこちらの方に移し、処理するということが報道されております。その際、放射能の数値を測定して、それから基準を検討すると言われていますが、そうではなくて、まず基準を定めて、その上で数値を調べ、そして対応する。きちんと安全を確認していただきたい。千葉県流山市から戸畑区に搬入された飛灰について、処理した時に、すでに海などに流れているものがあるのではないかと危惧をしている。その辺について説明していただきたい。

最後にPCBですが、若松で西日本17県のPCB処理を行った。平成27年度の3月で終る計画だが、それまでには終らないという話がある。その辺について終わるよう、きちんと対策をとっていただきたい。以上です。

#### 【西委員】

今回の基本計画は10年計画になるので、そういった意味では東北大震災との関わり方として、環境基本計画の中で、日本全体で、バックアップ出来るような体制をとっておく事が必要になってくるのではないか。その辺が、少しコミットが少ないのではないかと思う。

#### 【浅野会長】

北九州市の環境計画として、当面、東北の問題についてやらなければならないが、いつまで続けられるかという点も問題である。長期的には災害廃棄物が出た場合に、これだけの技術と施設を持っている自治体としては、周辺との関係で、技術力も場所もない自治体のために協力をする必要がある。それについては意識はしている。当面の問題を、この計画の中に入れてしまうと、国全体の処理計画との整合性が保てないことが記載してあるので、災害廃棄物についてはこのような認識でつくっているということで、ご理解いただきたい。

#### 【西委員】

「周辺」という言葉には、北九州市の周りだけのイメージがありますので、例えば、「関連」というような語句に書き換えることはできないでしょうか。

#### 【浅野会長】

とりあえず、頭出しというつもりで書いている面もあるので、それをどう読むかという問題もある。ご意見としては理解した。最終バージョンで、ここをもう少し踏み込んで書けるかどうかは検討したい。

事務局は八記委員の質問に対して答える余地があれば簡単に答えていただきたい。

【作花課長】

現時点では特に問題がないと確認している。「リサイクルのために本市で受け入れている、他都市の一般廃棄物から、放射線量、放射線検出されたかもしれない」というところは、現時点では全く問題はなくなっている。

それから、釜石市との協力の件で、当然のことながら放射線量の確認を行い、本市の環境に影響がないことを確認した上、リサイクルを行う場合には受け入れる。となっているが、現時点で、本市が受け入れると決まっているものではない。まだ検討の途中だが釜石市側からの発注の問題もあるので、こういった形で頼まれるのかも、未定です。

それから、産廃の目標ですが、産業を阻害するようなことがないよう配慮もあり、現時点数値をいれてないが、今後、市民の皆さんからの意見など踏まえ、実際にどのような対応するのか検討させていただきたい。以上です。

【浅野会長】

次の報告に移りたいと思う。

北九州市環境モデル都市の進捗状況について。それからスマートコミュニティ創造事業について。この2件についてまとめて報告頂く。

環境モデル都市の進捗状況の報告について、香具環境未来推進室次長より説明

スマートコミュニティ創造事業について、柴田環境未来都市推進室課長より説明

【浅野会長】

それでは、先ほどの報告と関係があるので、さらに環境未来学習システムの報告と、「ていたん」の制作について報告頂く。

環境みらい学習システムについて、石井環境学習課長より説明

環境マスコットキャラクター「ていたん」の制作について、渡部環境広報担当課長より説明

【諸藤委員】

ミュージアムでたくさんの市民の方と接するが、学習システムを知らないという意見をよく聞く。出来るだけ、この学習システムで、1人でも多く伝える人が増えていけるように。また、局と一緒にがんばっていけたらと思っている。以上です。

【浅野会長】

検討されようとしている学習システムと環境基本計画とが全く無関係に動くことはよくないと思う。それは上手く繋がるように、考えていかなければならないと思う。

更に環境モデル都市の進捗状況。北九州市の環境計画の中で、どんな形で位置づけられてどうなっているのかということも大事なことだと思う。補助金が切れたら、それも切れるのでは困る。どうやって、持続可能なプロジェクトにしていくのが、大きな課題ではないかなと感じている。

【三宅会長代理】

環境は色々な意味でバランスをとるのが非常に難しい。それぞれの関係者によって落とし所が、かなり違って来る。ただ、理想に向かって、少しでもより良い社会を目指していくべきだと思うので、環境局もそこを踏まえて、計画づくり頑張ってもらいたい。私共も厳しい意見も含めて申し上げていきたいと思う。

【浅野会長】

それでは、本日審議及び報告は以上で終わりたい。